



2020/2021年度活動報告書

自治医科大学医師・研究者キャリア支援センター

2022年9月1日

自治医科大学

Contents

■ はじめに		2
■ キャリア支援センターの体制	組織図 スタッフ紹介	3
■ 2020/2021 年度 活動状況	次世代育成支援 次世代医師・研究者交流会 全国ダイバーシティネットワークへの参画	5
	就業継続・復職支援 就業継続相談、白衣レンタル Jichi Joy Café 働き方を考えるセミナー 復職支援 附属病院事業	8
	育児支援 保育活動件数（人） 新保育施設建設に関わる活動について	18
	地域医療従事医師支援 卒後ワークライフバランスについて考える会 (自治医科大学 地域医療推進課女性医師支援主催)	18
■ アンケート 調査の実施		19
■ 印刷物		20
■ その他の活動、広報・メディア		22
■ 統計データ		23

はじめに

医師・研究者キャリア支援センター長 挨拶

小宮根 真弓 皮膚科学 教授



医師・研究者キャリア支援センターは、2007年に、女性医師支援センターとしてスタートしました。2012年度から、支援の対象を女性医師のみならず男女の医師・研究者に拡大し、現在の医師・研究者キャリア支援センターとして活動しています。

2016年度より、当センターの活動を報告書にまとめることにしました。2020/2021年度も、自治医大の職員の方々が、より快適に仕事を続けていくことができるように、職場の環境改善を目指しています。

次世代医師・研究者交流会には、各界における著名な先生を講師としてお呼びして、医師、研究者の方々の仕事に対するモチベーションを高めて頂けるようなお話をご講演頂いています。2021年度は、解剖学者の養老孟司先生をお呼びしました。講演では、AIがヒトの病気を診断する、という事象が生じているが、ヒトはAIとどのようにかかわっていけばよいのか、また意識と感覚の問題についてお話し頂き、参加者は、今後の医療の発展における私たちに投げかけられた問題を共有しました。また、2021年度の働き方を考えるセミナーでは、オンラインセミナーとしてキャリア支援活動を推進されている広島大学の蓮沼直子先生をお招きしました。キャリアステップアップについてのワークショップと医師研究者を育てるコミュニケーションスキルのご講演から、キャリアや働き方を考えるきっかけとなりました。

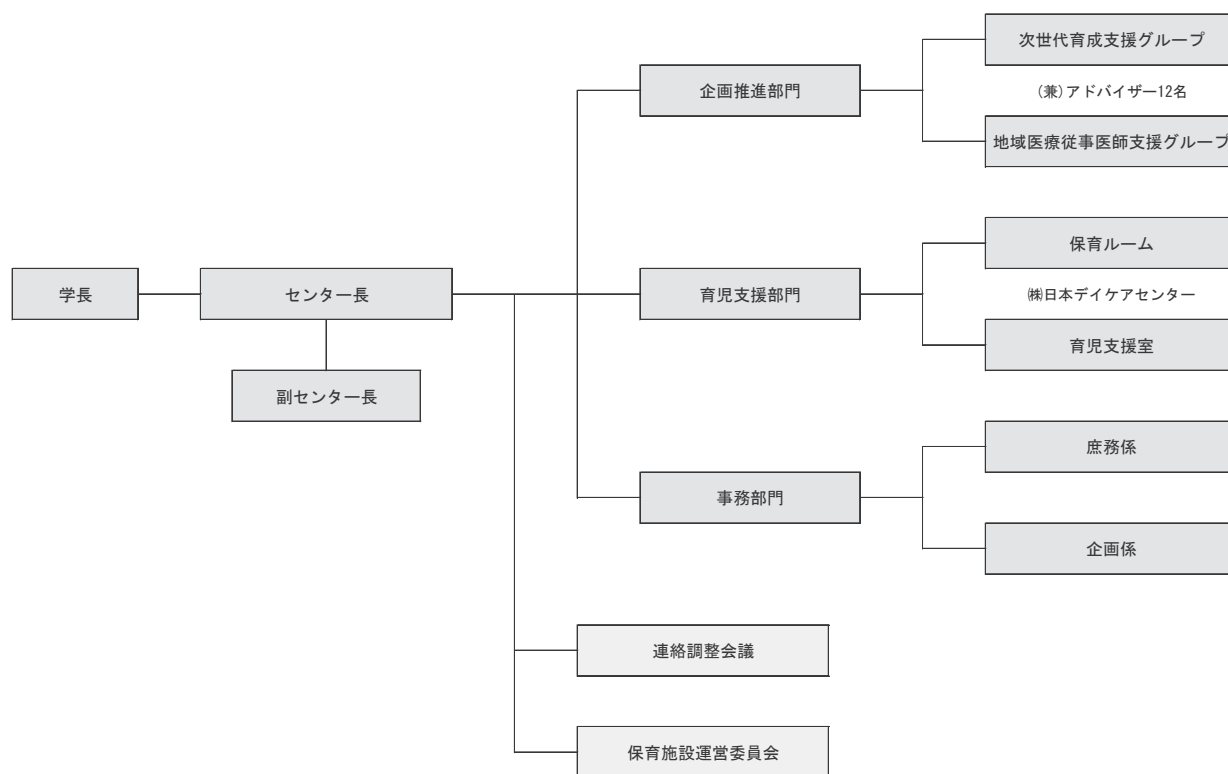
Jichi Joy Café (JJC)は2016年度より、副センター長（総合診療内科）の石川由紀子先生が中心になって始めた活動です。2020度は「互いに助け合い困難を乗り越えよう!」、2021年度は「お互いの多様性を思いやりながらコロナ時代を乗り越えよう!」をテーマに、キャリアの継続と家庭の両立について情報交換し、働きやすい職場づくりを考えるための交流会を、計3回開催しました。コロナ禍における同じ悩みを共有できる仲間のネットワークづくりに多くの職員の方々に利用していただければと思っています。

保育ルーム「あいりす」では、一時保育、病児保育、夜間保育等、これまで通り継続して行っています。2010/2021度も多くの利用者がありました。

今後も、より充実した支援体制・活動を目指してまいります。当センターを最大限に活用していただければ幸いです。

医師・研究者キャリア支援センターの体制

組織図



スタッフ紹介

2020 年度

- | | |
|----------------|------------------|
| 小宮根 真弓 (センター長) | 医学部・教授 |
| 山形 崇倫 (アドバイザー) | 医学部・教授 |
| 小川 真規 (アドバイザー) | 保健センター・教授 |
| 黒須 洋 (アドバイザー) | 分子病態治療研究センター・准教授 |
| 高橋 将文 (アドバイザー) | 分子病態治療研究センター・准教授 |
| 山邊 昭則 (アドバイザー) | 医学部・准教授 |
| 石川 由紀子(アドバイザー) | 地域医療学センター・講師 |
| 鴨下 信彦 (アドバイザー) | 医学部・講師 |
| 小形 幸代 (アドバイザー) | 医学部・講師 |
| 川合 志奈 (アドバイザー) | 医学部・講師 |
| 秋根 大 (アドバイザー) | 医学部・助教 |
| 加藤 梨佳 (アドバイザー) | 医学部・助教 |
| 村松 一洋 (あいりす園医) | 医学部・准教授 |
| 神田 貴代 (あいりす園長) | 附属病院・看護副部長 |
| 小西 克恵 (協力教員) | 看護学部・助教 |
| 望月 明美 (協力教員) | 看護学部・講師 |

2021 年度

小宮根 真弓 (センター長)	医学部・教授
石川 由紀子 (副センター長)	地域医療学センター・講師
高橋 将文 (副センター長)	分子病態治療研究センター・准教授
山形 崇倫 (アドバイザー)	医学部・教授
小川 真規 (アドバイザー)	保健センター・教授
柳沢 佳子 (アドバイザー)	附属病院・教授
黒須 洋 (アドバイザー)	分子病態治療研究センター・准教授
山邊 昭則 (アドバイザー)	医学部・准教授
薄井 里英 (アドバイザー)	医学部・准教授
笹原 鉄平 (アドバイザー)	医学部・准教授
嶋下 信彦 (アドバイザー)	医学部・講師
小形 幸代 (アドバイザー)	医学部・講師
上田 真寿 (アドバイザー)	附属病院・講師
佐藤 篤子 (アドバイザー)	医学部・講師
加藤 梨佳 (アドバイザー)	医学部・助教
中村 幸恵 (あいりす園医)	医学部・講師
加藤 貴美子 (あいりす園長)	附属病院・看護副部長
小西 克恵 (協力教員)	看護学部・講師
石井 容子 (協力教員)	看護学部・講師

2020/2011 年度活動状況

次世代育成支援

次世代医師・研究者交流会

若手医師や研究者、大学院生間の交流を深め、多様なキャリア形成や研究を推進するため、「次世代医師・研究者交流会」を実施しているが、2020年（令和2年）度は、新型コロナの影響で中止することとした。2021年（令和3年）度は、高名な解剖学者の養老孟司先生を招き、全教職員、学生を対象とした講演会を実施し、160名が聴講した。

日時：2021年11月15日（月）17:30～19:00

場所：地域医療情報研修センター 大講堂

講師：養老 孟司 氏（東京大学名誉教授）

タイトル「医学の勘違いー脳がとらえるヒトの体」



医学は科学的思考を前提にしており、ヒトの体をたくさんパーツに分解して理解しようとしているが、それで本当にヒトを理解することができるのか？脳はヒトの体の一部でありながら、自分の体を本当に科学的に理解することができるのか？最近ではAIがヒトの病気を診断する、という事象が生じているが、ヒトはAIとどのようにかかわっていけばよいのか？最近の医師は患者を診ないで病気を診ている、というようなことが言われているが、患者を診る、と

というのはどういうことか？

ご講演前半では、科学的にもものを見るとはどういうことか？意識と感覚の問題について話されました。ヒトの意識は特別なものであり、その機能は、以前と同じ自分であることを確認するという。また、ヒトは動物が持つ絶対音感や感覚優位の世界とは異なる抽象的な世界を持つこと。感覚から生じる微妙な違いを無視することで感覚的には本来違うものを同じものとして扱うようになり、言葉が生まれ、抽象的概念が生まれたことなど、違いや同一性、個性といったことの成り立ちを考えさせられる内容でした。



ご講演の後半では、AIとノイズについて話されました。AIはすでに、医療の現場に入っていますが、そのシステムに入れられない情報は無視され、それらはノイズとして扱われ、抽象化されない個々の具体的な人間がノイズになっていくというお話はとても印象に残りました。今後の

社会や医療の現場で、人はAIをどのように認めて、人はどのようにAIと折り合いをつけていくのか。医療の発展に伴い、私たちに投げかけられた大きな問題です。

全国ダイバーシティネットワークへの参画



2020年12月より、女性研究者を取り巻く研究環境整備や研究力向上に取り組む機関をつなぐ「全国ダイバーシティネットワーク」関東甲信越ブロックに参画することとした。2021年度は、関東甲信越ブロック会議（2021/6/10、2022/3/9）に出席し、ブロック間での共催セミナー開催や各大学からの現状報告を行なった。また、全国ダイバーシティネットワーク コラム「女性研究者・学生の声」に、関東・甲信越ブロックから環境予防医学の市原 佐保子 教授によるコラムが掲載された（2022/2/18）。

・特別セミナーの開催

2020年度には、「医師の働き方を考え、女性医師のキャリアアップを推進する」を目的とした特別企画セミナー（東京医科大学 開催担当）が開催され、働き方改革を推進し、女性医師のキャリアアップを実現するために、幅広い視点から医師の働き方の問題点と改革へ向けた取り組みについて検討し、本学キャリア支援センターからも数名参加した。

日時：2021年2月20日（土）16:00～18:30

場所：オンライン開催（Zoom ウェビナー）

講演3では、自治医科大学からは藤原 寛行 教授（産婦人科学講座）が、産婦人科での女性医師の働き方の現状と取り組みについて講演した。

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
「ダイバーシティ・研究環境実現イニシアチブ(全国ネットワーク中核機関(部))」
全国ダイバーシティネットワーク 特別企画セミナー
誰もが活躍できる医師の働き方改革を目指して
～医師の働き方を考え、女性医師のキャリアアップを推進する～
医師の働き方改革を推進し、女性医師のキャリアアップを実現するために、幅広い視点から医師の働き方の問題点と改革へ向けた取り組みについて検討いたします。
2021年 参加費無料 オンライン開催
募集定員500名
2/20(土)16:00～18:30
プログラム ◎ 幹事 石 龍徳 東京医科大学 副学長 / ダイバーシティ推進センター長
開会挨拶 16:00 大崎 義雄 東京医科大学 理事長
講演① 16:05 職場の働き方改革と女性のキャリアアップを考える
村上 由美子 OECD東京センター 所長
◎ 議長 林 由起子 東京医科大学 学長
講演② 16:35 その先を見据えた女性医師の働き方の選択と支援
名越 澄子 埼玉医科大学 医療人育成支援センター 女性医師支援部門 部門長
消化器・肝臓内科 教授
◎ 議長 二本 保 東京医科大学 病院長
講演③ 17:00 産婦人科での女性医師の働き方の現状と取り組み
藤原 寛行 自治医科大学 産科婦人科学講座 主任教授
◎ 議長 長岡 由衣 東京医科大学 腎臓内科学分野 准教授
休憩
パネルディスカッション 17:30 ◎ パネリスト
伊東 晶子 放送大学長崎学習センター 所長 / 新潟大学 副学長
村上 由美子 OECD東京センター 所長
名越 澄子 埼玉医科大学 医療人育成支援センター 女性医師支援部門 部門長
藤原 寛行 自治医科大学 産科婦人科学講座 主任教授
大久保 伊かり 東京医科大学 学長特別補佐 / ダイバーシティ推進センター 副センター長
◎ モデレーター
石 龍徳 東京医科大学 副学長 / ダイバーシティ推進センター長
閉会挨拶 18:25 林 由起子 東京医科大学 学長
セミナーへの参加は事前申し込みが必要です 右のQRコードまたは下記URLよりご入力ください。
事前申し込み先着順 <https://zoom.us/join/join?mta=789123&from=hp&from=hp>
主催：全国ダイバーシティネットワーク <https://www.opened-network/>
開催協賛：東京医科大学 ダイバーシティ推進センター
東京医科大学 東京都江東区豊洲5-7-1 東京医科大学豊洲校内TEL：03-3943-4111
E-mail：op@opened-net.ac.jp <https://www.opened-net.ac.jp/>
共 催：東京医科大学 医師会 <http://www.tokyo-med.ac.jp/ishikai/> 東京医科大学

・活動パンフレットの発行

2021年3月には、関東・甲信越ブロックの2020年度活動報告パンフレットを作成し、自治医科大学医師・研究者キャリアセンターの活動ならびに学内横断的研究支援活動について、全国に発信した。

学校法人 **自治医科大学**
Jichi Medical University

医師・研究者キャリア支援センター
Center for Physician and Researcher Career Support

〒329-0434 栃木県下野市紙園2-36-3 自治医科大学2号館2階
TEL 0285-58-7561 FAX 0285-44-8627
MAIL career-support@jichi.ac.jp URL https://www.jichi.ac.jp/c-support/



自治医科大学
Jichi Medical University






キャリアセンター活動・学内横断的活動による自治医大キャリア支援の取り組み

<p>保育士、看護師、保育サポーターによるマンツーマンの保育支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 育休、育児時短勤務の推進 ● 保育ルームあいらす(全職員対象、一時託児、病児保育、夜間保育) <p>パパママ&保育サポーター対象</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 健康、栄養についての講演会 ● サポーター交流会 	<p>保育・育児</p> 
<p>ひとりで悩まない・部署、部局、研究室、世代を超えた交流活動、情報共有の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Jichi Joy Café ● All Jichi Project ● キャリア相談 ● 医療技術トレーニング教育プログラム 	<p>就業継続 復職</p> 
<p>男女共同参画のもと若手医師・研究者のキャリアアップを支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 次世代医師研究者交流会 <p>学内横断的研究支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 科研費ブラッシュアップ支援 ● 医学部優秀論文賞 ● 大学院生ワークショップ 	<p>次世代育成</p> 
<p>自治医大現役生の今後の働き方や卒業生医師のキャリアアップを支援</p> <p>自治医大地域医療推進課&栃木県医師会女性部会と連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 卒後ワークライフバランスについて考える会(J-PASS) <p>学内横断的研究支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 論文作成支援(CRST:地域医療研究支援チーム) 	<p>地域医療 人材育成</p> 

◎ 組織沿革

- 2007年度 文部科学省「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム(医療人GP)」 「自治医科大学女性医師支援プログラム」採択 自治医科大学女性医師支援センター開設
- 2008年度 保育ルーム あいらす 一時託児開設(サポーター保育制導入)
- 2010年度 あいらす 病児保育スタート
- 2011年度 あいらす 夜間保育スタート
- 2012年度 医師・研究者キャリア支援センターへ移行 全職員が保育ルーム あいらす を利用可能に
- 2018年度 新保育施設整備検討委員会設置 特別週30時間育児時短勤務制度スタート
- 2019年度 裁量労働制、変形労働時間制、専門業務型裁量労働制の導入 センターアドバイザー増員(11名体制)へ
- 2020年度 全国ダイバーシティネットワーク参画機関に認定

主な組織構成

- 医学部
- 大学院医学研究科(修士・博士課程)
- 看護学部
- 大学院看護学研究科(博士前期・後期課程)
- 自治医科大学附属病院
- とちぎ子ども医療センター
- さいたま医療センター

就業継続・復職支援

子育て中の医師（男女を問わず）に対し、就業と育児を両立させる具体的な支援制度として、勤務条件の柔軟な運用を目的に週 20 時間の短時間勤務制度を導入している。また、自治医科大学では国が定める週 30 時間の育児短時間勤務制度を子が小学校に入学するまで（所属長が認めた場合は小学校 3 年生まで）取得できるよう拡大している。

アドバイザーによる勤務継続のための相談、カウンセリング、コーディネート

勤務継続支援に関する相談は 2020 年度は 1 件、2021 年度は 2 件あった。

マタニティ白衣のレンタル

女性医師を対象に、妊娠中に使用するウエストが調節可能なコートタイプのマタニティ白衣のレンタル(無料)を行った。また、2013 年度から半袖タイプのマタニティ白衣を導入、2015 年度から長袖 L を増やし、ニーズに応えられるようにした。（利用者：2020 年度 2 名、2021 年度 1 名）

Jichi Joy Café

医師、研究者、学生等を対象に、キャリアの継続と家庭の両立について情報交換し、働きやすい職場作りについて考える交流会として、2020 年度は 8/21, 3/5 の 2 回開催した。2020 年度のテーマは、「互いに助け合い困難を乗り越えよう！」として、2020 年度はコロナ禍で現地集合が難しかったため、オンラインで開催した。2021 年度はコロナ禍で現地集合が難しかったため、10/6 にオンラインで開催した。2021 年度テーマは「お互いの多様性を思いやりながらコロナ時代を乗り越えよう！」とした。

第12回 Jichi Joy Café の開催

日時：2020年8月21日（金）12:00～13:30

場所：リモート形式

医師・研究者キャリア支援センター
第12回 Jichi Joy cafe
年度テーマ：互いに助け合い困難を乗り越えよう！

日時：8月21日（金）12:00～13:30（途中入室自由）
場所：WEB（リモートにて）
対象者：医師・研究者
内容：フリーディスカッション
「今困っていること悩んでいることなどをみんなでシェアしよう！」

※お申込は8月14日（金）迄下記メールアドレス、医師・研究者キャリア支援センター担当 青木・渡邊までご連絡下さい。事前登録制です。

自治医科大学 医師・研究者キャリア支援センター
<お問合せ> TEL: 0285-58-7561 (2448) FAX: 0285-44-8627
e-mail: career-support@jichi.ac.jp

8月21日（金）、12時から13時半まで、Chat Work（リモート方式）の JJC を開催しました。事前申し込みは9名（他に問合せ1名）で、当日は2名が参加できなくなり、7名での開催となった。

参加者のご感想には以下のようなものがあった。

- 集まらない事情の中のオンライン開催で顔を合わせることができた。
- コロナ禍の影響について話し合った。仕事をしながら宿題を見たり、出勤しなければならぬ日にオンライン授業の立ち上げをしなければならなかったり、仕事でも家庭でも緊張の中日々を送っていたことなど、この時期に共有できてよかった。
- 妊娠中の先生に対して、医局でサポートされていることは本当に心強いと思う。困っていることや不安に思っていることは一人で悩まず、不安や悩みをみんなで共有してほしい。
- 対面で集まりにくい時期だからこそ、web を利用し JJC を通して繋がれるのは良いことだと思った。是非継続してほしい。ただ、曜日や時間を変えることで、様々な人に参加してもらえる工夫は必要だと思った。
- 新型コロナウイルス感染対策のために学童・保育所が利用できなくなったり、子供の教育のフォローが必要になったり、様々な苦労があることを共有できて良かったと思う。
- 妊娠、出産について初めて経験される先生は、その後の仕事、育児に不安がある。
- 保育園については待機児童が自治医大周辺でもあることを知らないことが実情なので、こうした情報提供は早めにわかるような仕組みを考えた方がいい。
- キャリア継続したいが、家庭のこともあって、と悩みは皆同じなので、直接の解決にはならないが、共有することで少し気持ちが楽になると思う。

- Web だと、みんなの発言は聞きたいけど、発言は遠慮したい... という先生にはどうなんだろうと感じたので、少し対応を考えてもいいかもしれない。
- 今後の育児に関して保育園のことや日常のお話を伺うことができ大変参考になった。
- 「あいりす」の施設の概要(病児保育や一時保育)もあまり理解できていなかったなので、聞くことができ良かった。

第13回 Jichi Joy Café の開催

日 時：2021年3月5日（金）17:30～18:30

場 所：リモート形式 ZOOM

医師・研究者キャリア支援センター

第13回 Jichi Joy cafe

年度テーマ：互いに助け合い困難を乗り越えよう！



日 時：3月5日（金）17:30～18:30（途中参加自由）
場 所：WEB（リモートにて）
対象者：教職員・学生
内 容：講話&フリーディスカッション
「コロナにおけるメンタルヘルス対策」講師：佐藤 謙伍 先生
（自治医科大学卒）

※お申込は3月2日（火）迄に下記メールアドレス、医師・研究者キャリア支援センター担当 青木・渡辺までご連絡下さい。事前登録制です。

自治医科大学 医師・研究者キャリア支援センター
<お問合せ> TEL：0285-58-7561 (2448) FAX：0285-44-8627
e-mail：career-support@jichi.ac.jp

附属病院 佐藤 謙伍 先生の講和とその後、フリーディスカッションを行いました。コロナ禍での診療における医師のメンタルヘルス対策など、有意義な情報を交換できた。



第14回 Jichi Joy Café の開催

日時：2021年10月6日（水）17:30～18:30

場所：ZOOM（リモート形式）



当日は、当センターの先生方を含めて13名の方がご参加しました。「キャリア継続のための育児事情～子供の預け先どうしてる？～」というテーマで、小形幸代先生の司会のもと、まず最初に、石川由紀子先生、加藤梨佳先生、小形先生からテーマに沿ったプレゼンテーションをしていただき、その後フリーディスカッションを行なった。

日時：10月6日(水) 17:30～18:30(途中参加自由)
場所：WEB (リモートにて)
対象者：教職員 (非常勤、育児休業中の方も大歓迎です)
**内容：キャリア継続のための育児事情
～子供の預け先どうしてる？～
フリーディスカッション**

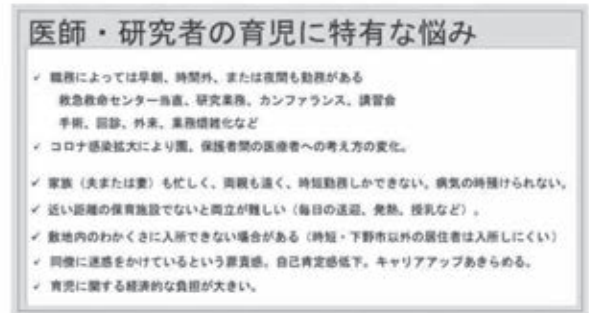
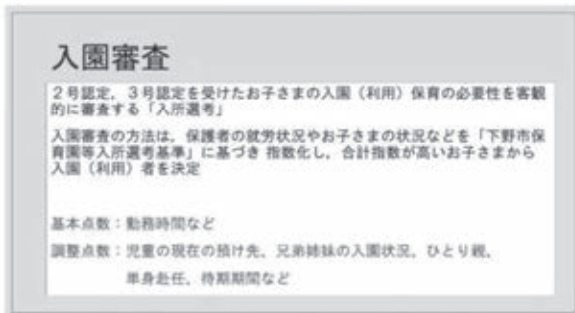
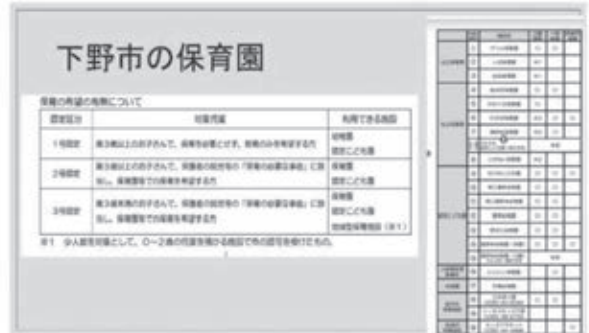
※お申込は10月1日(金)迄に下記メールアドレス、医師・研究者キャリア支援センター担当 関口・遠沼までご連絡下さい。事前登録制です。

自治医科大学 医師・研究者キャリア支援センター
<お問合せ> TEL: 0285-59-7561 (2448) FAX: 0285-44-8627
e-mail: career-support@jichi.ac.jp



① 自治医大の保育事情 最近の動き

総合診療部/石川 由紀子先生 (副センター長)



自己紹介&フリーディスカッションでは以下のような感想があった。

【医師・研究者キャリア支援センターのとりくみについて】

- 子育てに関して支援をしようという取り組みがされていることが良く伝わってくる内容であったので、こちらのモチベーションもこれからがんばろうという気にさせられるもので良かった。
- 子どものサポートだけでなく、子どもを見る保護者のサポートも必要だと思った。
- 仕事に復帰するための支援ももちろんであるが、キャリアアップの支援もあると有難いと思った。

② コロナ禍での育児と仕事の両立

コロナ禍での 育児と仕事の両立

自治医科大学 循環器内科 小形幸代

コロナ禍で変わった日常

- ▶ 休校中の預け先の確保
学童、祖父母へ連絡。お弁当が必要になることも。送り迎え。親がお休みする。
- ▶ 家族がコロナ感染になった時のシミュレーション
- ▶ オンライン授業のサポート
機器の接続、授業の補助
- ▶ 親が子どもの遊び相手

オンライン授業のデメリット

あくまで代替え授業

- ▶ 自主的に行わないと課題がたまっていく。
- ▶ 一方性になりやすく先生が生徒の理解度を把握できない。
- ▶ 生活習慣が乱れる。
- ▶ 集中力を維持できない。
- ▶ 通信環境に左右されやすい。
- ▶ 同じ姿勢で画面に向かってるので、目の疲れや肩・腰に負担をかけないか心配。

循環器内科学/小形 幸代先生 (アドバイザー)

コロナ禍で変わった日常

- ▶ 子どもの保育園・学校が突然の休園・休校
預け先の確保。学習の遅れ。
- ▶ 登下校の時間が度々変更
時差登校、早帰りなどの対応。
- ▶ 学校での感染報告、濃厚接触者になる？
夜遅い時間のメール通知で、翌日が不安。
- ▶ 緊急事態宣言でオンライン授業へ
集中力が持続しない。低学年はサポートが必要。
- ▶ 友達と自由に遊べない
子どものストレス発散はどうする？ 運動不足。

オンライン授業のメリット

- ▶ 通学の必要がない。
- ▶ オンデマンド形式では、何度も授業を再生できるため、見直して復習に役立つ。
- ▶ 授業のペースについていけなくても、授業動画は自分のペースで学習できる。
- ▶ わからない場合は、その場でネット検索したり、辞書を引いたりできるので、学習効率が良い。
- ▶ 対面での授業で発言するのは躊躇してしまうこともあるが、チャット機能で対面授業よりも活発に発言や質問ができる。

コロナ禍での育児のストレス

- ▶ 人に会えない密着育児
- ▶ 周囲に“頑張りすぎている自分”に気づいてもらえない。
- ▶ 自分が頑張りすぎていることに気づけず、ストレスがどんどん溜まる。
- ▶ 溜まったストレスが子どもへ向かう危険。
- ▶ 頑張りすぎている自分に気づいたら、そういう自分を手放してみる。
- ▶ 手抜きをする勇氣。

【コロナ禍の育児について】

- 小学校低学年のオンライン授業というのは親の関わりがすごく大変なんだなと思った。また、家で見られる人は良いが、学童などに行ってしまうとなかなか手厚いことはできないので「学び」の差が生まれる可能性もあり、そういうことも考えないといけないのかなと思った。
- ネット上の掲示板のようなものに、育児や家庭の困り事を書き込んで、それを見た方が「こうするといいんじゃない」みたいなことを書いてくれると良いのではないかなと思った。

【育児支援について】

- 子どもが来年から小学生になるのでいろいろと不安がある。小学生になってからでも使えるサポートも何かあると良いと思った。
- 自分が子育てをしているときにはまだ自治医大に病児保育がなく、市の施設に預けていた

が、今は大学の中にあるというのは非常に有難いことだと思っている。

- 保育園も例年夏休み明けから大体一杯になってくるが、人口の多い自治体では既に抽選になっているという話を聞いた。やはり、9月から3月、特に1月から3月は入りづらくなるのが多くなるので、院内保育園のニーズは高いのではないかと思う。
- わかくさ保育園も定員を増やしていただいたので、現状では下野市外の職員も入所できているようであるが、9月以降も入所できるかどうかを見守っているところである。

【病児保育について】

- 病児保育は働く人にとって非常に大切に、要望を出そうとしていることが実現されると本当に良いと思った。病児保育が良い方向に行けば、医師だけでなく看護師さんも働きやすくなるのではないか。
- 自治医大の病児保育に関しては、某自治体の施設と比較すると、受入れの基準が厳しく(熱が39℃まで、こういう病気は不可等)預けられる児童の範囲が狭いので、ちょっと使い難いと感じている。施設を充実することによって受入れの範囲が広がると有難いと思っている。
- そのへんのことについては感染制御部の先生にも意見を聞いてみたいと思う。
- 受入れの基準については各施設ごとにその施設の事情で決めている。自治医大の院内の施設であれば、医師がすぐ駆け付けられるという利便性を生かして、かなりハードルを緩くして利用者が困らないように出来たらよいと思う。
- 自分は何度かこの病児保育を利用しているが、一对一の保育で、しかも個室でかなり細かいところまでメモを取っていただけるのでとても満足している。感染対策について、感染制御部の先生に見てもらうのは的確なアドバイスがいただけると思うので大変良いことだと思う。
- 医師以外の職種の病児保育の利用者が少ないのは金額の面もあったと思うが、今年度から値下げしたので、その辺の広報は必要かもしれない。

働き方を考えるセミナー

個人が仕事上の責任を果たしつつ、結婚や育児をはじめとする家族形成の他、介護やキャリア形成、地域活動への参加等、個人や多様なライフスタイルの家族がライフステージに応じた希望を実現できるようにするために、多方面で活躍されている方を講師に招いてセミナーを開催している。2020年度は新型コロナウイルスの影響で中止し、2021度は実施し、49名が参加した。

働き方を考えるセミナーの開催

日 時：2022年2月10日（木）16:00～18:30

場 所：ZOOM 開催

講 師：蓮沼 直子 氏（広島大学医学部附属医学教育センター長）

第1部 ワークショップ「一緒に考えよう、キャリアプラン」

第2部 セミナー「医師・研究者を育てる～コミュニケーションスキル・実践編～」

自治医科大学 医師・研究者キャリア支援センター
働き方を考えるセミナー
2022年2月10日（木）オンライン
～メインテーマ～
すべての医師・研究者に贈るキャリア支援の考え方

学内の方
どなたでも
参加できます

第1部 16:00～17:15
ワークショップ

第2部 17:30～18:30
セミナー
(ZOOM 定員100名)

★お申し込み方法★
登録フォームより
事前参加登録を
お願いいたします

<https://forms.gle/PmrLj8Bazi1opz8JA>

講師：
蓮沼 直子 先生
広島大学医学部
附属医学教育センター
教授

【プロフィール】1994年秋田大学卒業。1997年にアメリカへ留学し、第一子を出生。帰国後、専門医取得のため秋田大学へ戻る。2014年には秋田県「男女共同参画社会づくり表彰」のハーモニー賞を受賞。現在は広島大学医学部附属医学教育センター長として、医学教育、キャリア教育を行っている。

1. ワークショップ
一緒に考えよう、
キャリアプラン

2. セミナー
医師・研究者を育てる
～コミュニケーション
スキル・実践編～

1部または2部のみの参加も可能です。

お問い合わせ、託児室お申し込み先
自治医科大学 医師・研究者キャリア支援センター 事務局 (担当: 関口・渡邊)
TEL: 0285-58-7561 (内線 2448) FAX: 0285-44-8627
e-mail: career-support@jichi.ac.jp

センター Web

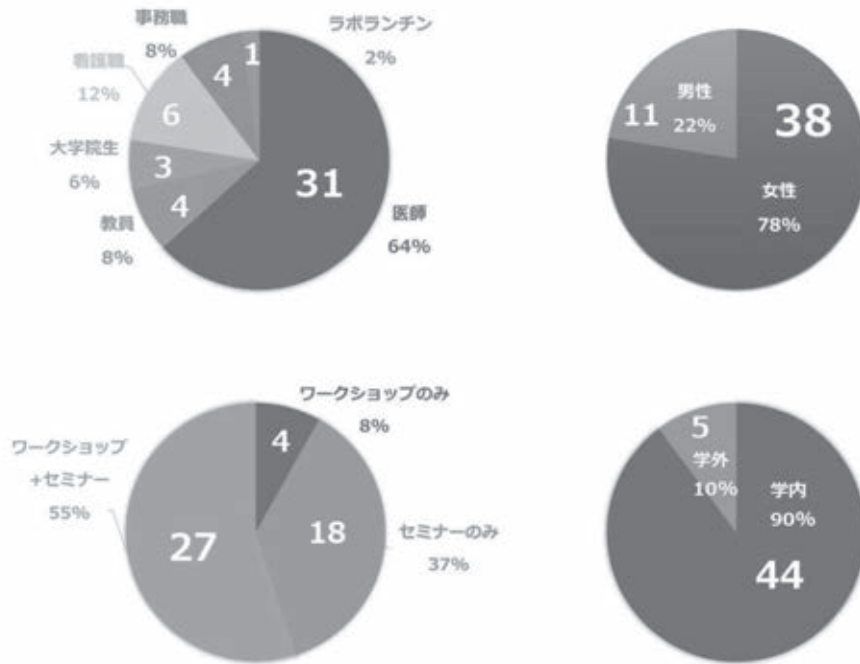
第1部：ワークショップ

参加者は、講師の蓮沼直子先生のインストラクションのもと、配布頂いたワークショップシートを使って、それぞれ自分自身のキャリアアンカー（キャリア形成において重要視していること）を確認しました。次に、大谷翔平選手が花巻東高校1年時に立てた目標達成表を参考に、自分自身の最終的な目標達成に向けた小目標を具体的に計画し、練り上げていく過程を教えて頂いた。最後に、キャリアステップアップシートで、現在の問題点からスタートして、明日やること、○年後のゴール、やめること、どんなResourceを持っているか、などを確認した。皆さん、ご自分の目標を実践的に立てる経験を楽しまれたかと思います。

第2部：セミナー

第2部は『医師・研究者を育てるコミュニケーションスキル・実践編』と題してのご講演を賜り、ケアレスマン、イクボスプロジェクト、上司がしてはいけないことなど、支援する側とされる側のどちらにも心動かされるキーワードが満載で、アットホームな雰囲気の中、45名の御参加を頂き大変盛況な会となりました。

参加者分布



オンラインでの2部構成で行なったが、幅広い職域の参加者があった。また、学長、副学長の参加もあり、男性の参加は全体の22%であった。

アンケート結果

参考になったことや印象に残ったことを教えてください。

- 上司がしてはいけないことの具体的なアドバイスがためになりました。
- すべて参考になりました。コロナ対応などで落ち着いて聞けなかったことが残念でした。
- ケアレスマン、なるほどです。
- 第一部の感想 自分のキャリアを具体的に描くきっかけになりました。第二部:支援する側、支援される側、どんな職種にも響く内容でした。

第一部で印象に残ったことは大谷選手の曼陀羅シートで、キャリアビジョン(目標)の実現には具体的なアクションプランを定めて日々実行していくことの大切さで、実例があるためより説得力がありました。第一部もですが、今回参加したのは、育児中の職員を含めたキャリア支援の強化をしていきたいと考えており、そのための基礎知識を確認したかったからです。蓮沼先生の講義には、そこに必要なことがポイントを押さえてまとめられており大変参考になりました。

- 波乗りキャリアのはなし。学内でどのように施策を展開したらよいか。
- 蓮沼先生のお話は経験値からのお話を交えており、説得力があってよかった。
- 何もかも急いでやらなくてもいい、の一言
- ケアレスマン 波乗り型
- 話しかけられることが苦手でしたが、話しかけやすい雰囲気がコミュニケーション能力に重要なのだと聞いて少しいい気分になった。

本日のセミナーの運営につきましてご意見ございましたらお書きください

- 私は女性ですが、今回演者のみならず視聴者に女性が多いことが気になりました。今後は、結婚や出産する女性のキャリアアップについてよりも、性や結婚の有無に関わらず全ての人に対するフェアなキャリアアップを考える講演をより聞きたいと思います。
- アットホームな感じが良かった
- いい講師でした。
- 学びの多い企画をしていただきありがとうございました。web で大変参考になる内容が聞けて良かったです。コロナが収束した場合も、web かハイブリッドで企画いただけるとさいたまからも参加がしやすいです。時間については、業務との兼ね合いがあるので17:15以降（さいたま医療センターの定時）だとさらにありがたいです。
- Zoomの良さがいかせていたと思いました。
- 実際にお会いできないのが残念でしたが、WEBは遠方からでも参加ができるのでメリットも多いですね。
- すばらしい企画と、参加の機会を頂きありがとうございました。第1部のセミナーに参加させていただきました。先生のご経験に基づくお話はとても説得力をもって心に響きました。今まさにライフイベントのさなかにある研究者や、これからさきのプランが見えにくくなっている研究者にとって勇気づけられるお話だと思いました。都合で2部に出られなかったのですが、もし配信が可能ならお知らせ頂けるとありがたいです。

次回以降の働き方を考えるセミナーで話し合いたいテーマや、お話をお聴きになりたい方がいらっしゃいましたら教えてください

- 残業などが習慣になっている人の認識をどう変えていくか等
- 女性医師の働き方について
- 同じテーマでより深く
- 迷走期のキャリアの過ごし方のりこえ方
- パワハラやマタハラについて
- 自治医大でのキャリア教育

復職支援

メディカルシミュレーションセンターの医療安全プログラム及び医療技術トレーニング部門の教育プログラムを利用したサポートについてご案内している。

附属病院事業

2015年度から附属病院と連携して、診療科を超えた繋がりを強化するため、All Jichi Projectを開催しているが、2020年度、2021年度ともに新型コロナの影響で開催しなかった。

育児支援

育児支援(満3カ月～12歳)については、医師、研究者に限らず全教職員を対象とし、一時託児、病児保育、夜間保育を実施した。担当要員として保育サポーターをマンツーマンで付けるほか、看護師3名、保育士3名を配置している。保育ルームは自治医科大学2号館2階にあるが、2020年度まで保育利用者の自宅等で保育が行われるルーム外保育も実施していた。なお、この業務は(株)日本デイケアセンターに委託している。保育関連の行事として、例年、BLS(救急蘇生法)研修会、育児支援講演会、保育サポート会員懇親会、夏祭り、クリスマス会を実施しているが、2020年度および2021年度は新型コロナの影響で中止することとした。

保育活動件数(人)

	一時託児	病児保育	夜間保育	合計
2020年度	352	139	43	534
2021年度	333	314	66	713

新保育施設建設に関わる活動について

2018年2月に「保育施設見直しアンケート調査」を行った。その後、2018年6月に新保育施設整備検討委員会が設置され、企業主導型保育事業への申請による自治医科大学認可外保育園建設計画が進められた。2020年3月の段階で、大学の経営状況により企業主導型保育事業助成金の2020年度申請を断念した。その後、キャリア支援センターでは、2021年度は、現在の病児保育施設の問題点を挙げ、改善していく方向で議論を進め、病児保育室新設または改修の要望を大学に提出した。また、2021年度には、現状のあいりす利用状況を鑑み、2022年度4月から、夜間保育、一時託児の定員を変更することを議論した。今後の大学への要望等のために、助成金を調査し、下野市こども福祉課、栃木県こども政策課へも助成金に関して問い合わせを行う準備をした。また、公的助成金以外の資金獲得方法として、クラウドファンディングの調査も行った。

地域医療従事医師支援

卒後ワークライフバランスについて考える会(自治医科大学 地域医療推進課女性医師支援主催) [医学部] 「卒後ワークライフバランスについて考える会 2021 in Jichi」が開催されました 2021年6月26日(土)

平成24年度から実施している本会も、今回で11回目の開催となりました。例年、医学部学生寮で開催しておりますが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今回はWeb会議システムZoomを用いて開催されました。今回は「みんなで考えよう!～地域医療とワークライフバランス～」をテーマに、本学卒業生の明石陽介先生(奈良県24期:南奈良総合医療センター勤務)、山本智美先生(北海道33期:香川県立中央病院勤務)よりご講演をいただきました。

オンラインでの開催となりましたが、教職員、医学部学生などが多数参加し、卒業生の講演を熱心に聴講しました。会の後半では意見交換を行い、学生と卒業生、また参加教員とで盛んな議論がなされ、交流を深めることができました。会の開始前には、卒後指導委員会女性医師支援担当教員が学生寮へ出向き、参加学生へお弁当の配付を行いました。また、前回の開催から医学部同窓会から協賛をいただいております、参加学生全員へチョコレートの差し入れがありました。この場をお借りしまして、深く御礼申し上げます。

※2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、開催は見送りとなりました。

アンケート調査の実施

2020/2021年度は特別な課題に対するアンケートは行っていないが、各イベント後のアンケートをフォームを用いて行った。

・2021年度 次世代医師研究者交流会

Q. 自治医科大学医師・研究者キャリア支援センターは、来年度(2022年度)に開設10周年を迎えます。当センターへ期待することがありましたら、是非教えてください。

- 女性医師の支援だけしている印象です。しかも時短ばかりじゃなくて、フルタイムに戻るための支援・教育をするべきと思います。他の医療スタッフや研究者からも、不公平感があると思います。
- 今回のような講演をまた行っていただけますと幸いです。
- この10年を総括して更なる活動を期待する。
- 男女の区別なく働きやすい大学を実現させてください。
- 発足の経緯やHP・活動内容から、どうしても「女性医師支援」の組織と認識しており、男性には無縁の所のように感じてしまいます。「キャリア支援」ということで、もっと幅広い活動やその実績のアナウンスなどもいただけたら良いと思います。
- 働いている人の健康増進
- 大切な活動だと思っております。応援しております。
- 子育て真っ最中でもないためか、センターの活動の中心が講演会、茶話会のイメージが強いです。マンネリ化を防ぐためにメンバー替えなどをして、取り組みの見直しをしていく方が良いのかなと思います。

Q. キャリア支援について大学に対する要望がありましたら、是非教えてください。

- いつも貴重な講演会をありがとうございます。今後更に、研究調査などに、フレキシブルに参加しやすい環境や体制(仕組み)がありましたら、ありがたいと思いました。
- 研究者のキャリア支援。キャリアの意味が、育児後の復帰と労働継続だけに偏っているのはちょっと違うと思います。
- 積極的な支援
- 多様で実用的な情報の提供
- 女性医師支援はまだ足りないように思います。

★協栄会様より寄贈いただきました★

一般社団法人自治医科大学協栄会様から、今年も下記掲載の品々を寄贈していただきました。こちらは、保育ルーム「あいらず」においての当センター育児支援部門の運営、活動にご賛同いただきまして、毎年寄贈頂いているものです。今年度は、ブルーレイプレーヤーやまごセット、知育玩具等々多数のお品物を頂戴いたしました。未末く大切に使用させていただきます。協栄会様、ご寄贈いただき厚く御礼申し上げます。



★働きやすい環境作りについて【Good Practice】のアンケート調査結果★

2020年2月に各講座(診療科)がどのような就業支援の取り組みを実施しているのかを調査するために、働きやすい環境について【Good Practice】調査を実施させて頂きました。基礎系講座28、臨床系診療科29、看護学部教科系、計45講座(診療科)を対象に実施し、計24講座から回答いただきました。ご回答いただきありがとうございます。結果は学内外で共有させて頂き、今後の就業支援に活用していきたいと考えています。



実施目的、効果を大きく4つに分類しました。※目的、効果が1つでない場合は複数計上

- ① 超過勤務、就業規則に関すること
- ② 診療や業務効率化に関すること
- ③ 働きやすい職場作りへの環境整備に関すること
- ④ 若手等の人材育成に関すること



★分類詳細結果について(抜粋)

① 超過勤務、就業規則に関すること

- カンファ、医局会、抄読会、会議の実施時間変更 11件
- ・超過勤務の削減を目的に実施している意見が全部であった。変更時間帯は講座、診療科の状況により、勤務開始前の朝8時、お昼、日中、夕方5時半から開始するなど様々。
- ・非生産的な時間をなくす事を目的に、夜の製薬会社の説明会を中止しWeb講演会を案内してもらう。
- ・フレックス勤務体制の導入として、病棟医師室に記入シートを置き、当番のお昼までの患者の状況、緊急入院の状況等により数人の医師を午後帰宅させ、超過勤務削減しているとの意見もあった。

② 診療や業務効率化に関すること

- カンファ、医局会の効率化 4件
- ・昼休み前後の時間帯の日中実施する事により集中的に討議、検討することで議論を活性化。
- ・毎朝チャートカンファを実施する事により、その日の所在員全員で方針決定、業務を円滑に進められる。
- ・SNS 利用によるカンファ情報共有と連絡事項等の通知機能。
- ・カンファレンスを短縮する事で、業務の効率化を図る。(実施目安1h)

③ 働きやすい職場作りへの環境整備に関すること

- 同僚会の実施
- ・新年会、忘年会、暑気払い、歓迎会、お花見、BBQ、同門会と名目は様々であったが、話しやすい職場環境作りと親睦を深める目的として実施。
- ・実施方法についても様々な工夫が見られ、全員が参加しやすい時間として昼食時に学内又は近隣飲食店にての開催や、夕方から時間を設けて近隣飲食店でゆっくり会話できる雰囲気を作り開催の意見があった。
- 管理者等との個人面談の実施 10件
- ・実施目的の大多数が就業、業務、私生活に対する不安や悩みのヒアリングと問題解決へのアドバイス、少数意見として、研究シーズの発掘、日常業務改善と効率化の発掘、キャリア開発のヒアリング等。
- ・年1回、管理者と近隣飲食店で食事を取りながら実施しているとの意見もあった。
- ・医局旅行(年1回) 2件

④ 若手等の人材育成に関すること

- 管理者等との個人面談 3件
- ・年1回コンピテンシーの達成評価及び次年度の目標設定や希望の聴取評価。
- 学会、研修会等の参加助成 2件
- ・学会、研究会の情報を定期的に一斉送付。
- ・専門医合格祝賀会の開催により後進研修医の励み付け。

以上のような結果となりました。貴重なご意見ありがとうございました。

医師・研究者キャリア支援センター
内線：2448
mail: career-support@chit.ac.jp

保育ルーム「あいらず」
内線：2445
直通：0285-58-7572



★協栄会様より寄贈いただきました★

一般社団法人自治医科大学協栄会様から、今年も下記掲載の品々を寄贈していただきました。こちらは、保育ルーム「あいらず」においての当センター育児支援部門の運営、活動にご賛同いただきまして、毎年寄贈頂いているものです。今年度は、くるま大回廊やアニメのDVD、キッズミニシアターなどの知育玩具等々多数のお品物を頂戴いたしました。未末く大切に使用させていただきます。協栄会様、ご寄贈いただき厚く御礼申し上げます。



★全国ダイバーシティネットワーク認定証が届きました！！★

女性研究者を取り巻く研究環境整備や研究方向上に積極的に取り組む諸機関をつなぐネットワークとして、平成30年に発足した機関である「全国ダイバーシティネットワーク」に本学は、令和2年2月に参加しました。この度、令和2年12月14日付で認定証が交付されました。今後もダイバーシティネットワーク組織の活動について、随時参加していく予定です。



★ホームページを更新しました★

当センターのホームページを大幅にリニューアルしました。当センターの事もっと知っていただけて、多くの方に利用していただけるように、当センターについての説明から、支援内容、イベント等の活動情報などを見やすく分かりやすく致しました。お知らせなど随時更新していきますので、ぜひご覧下さい。



★センター長 小宮根真弓先生の健康特集記事が下野新聞に掲載されました！★



医師・研究者キャリア支援センターセンター長 小宮根真弓先生の記事が、令和3年2月18日付で下野新聞に掲載されました。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、マスク着用が定着していることによる皮膚炎などの肌荒れに対するの注意など、すぐにも役立つ内容で、とても参考になるお話でした。

医師・研究者キャリア支援センター
内線：2448
mail: career-support@chit.ac.jp

保育ルーム「あいらず」
内線：2445
直通：0285-58-7572



★キャリア支援センター 新しいメンバーのご紹介★

今年度から、医師・研究者キャリア支援センターにご協力いただく新しいメンバーをご紹介します！今後のセンターの活動やイベントを通してお力を発揮していただきたいと思っております。

企画推進部門 アドバイザー



藤沢 佳子
腫瘍センターがんゲノム医療部の部長です。私は認定遺伝カウンセラーです。がん患者の遺伝カウンセリング関連業務を担当しています。よろしくお話し致します。



世原 鉄平
臨床感染症学専門の部長です。オブザーバーとして、特に感染対策関連でお力になれると思います。よろしくお話しいたします。



上田 真寿
副任。専攻サポートセンターと血液科に所属しています。育児、介護ともに経験し、現在はどちらにも卒業しています。自身の経験が少しでも皆様のお役にたかせたいと思います。よろしくお話しいたします。



佐藤 陽子
この度参加させて頂く事になりました。一介の勤務医でも大学勤務を続ける選択がある事を発信できれば幸いです。

企画推進部門 協力教員



小西 克恵
看護学部小児看護学で教員をしています。本学が附属看護短期大学を卒業し附属病院で13年間看護師として勤務しました。後輩の看護師が子育てしながら働きやすいと思えるような環境づくりをみなでがんばっていきましょう！と思っています。



石井 容子
看護学部の石井です。教員は4年目で経験が浅く手探りです。現在、東北大学大学院の博士課程に在籍し、緩和ケアの研究を進めております。2児の母でもあります。どうぞよろしくお話しいたします。



加藤 貴美
保育ルーム「あいらず」の専任に就任いたしました。教員としての経験と子どもたちが安心して安心して育める環境づくりに努め、職員一同で保育活動に努めていきますので、よろしくお話しいたします。



中村 幸恵
小児科の中村です。あいらず園医を担当しております。よろしくお話し致します。

医師・研究者キャリア支援センターは センターWeb: <https://www.jichiac.jp/c-support/>
毎年2022年度に 開設10周年を迎えます TEL 0285-58-7561 E-mail career-support@jichiac.jp



★第14回 Jichi Joy Café をオンラインで開催しました★

「お互いの多様性を思いやりながらコロナ時代を乗り越えよう！」をテーマに10月6日(水)にZOOM(リモート形式)で「第14回 Jichi Joy Café」を開催しました。当日は、当センターの先生方を含めて13名の方にご参加いただきました。今回は、「キャリア継続のための育児事情～子どもの預け先どうしてる？」というテーマで、小形 幸代 先生(循環器内科学)専攻のものと、石川 由紀子 先生(地域医療学センター)、加藤 梨佳 先生(精神医学)、小形 先生からテーマに沿ったプレゼンテーションをしていただき、その後フリーディスカッションを行いました。詳しい内容は センター/活動報告のページに掲載されています。



★次世代医師・研究者交流会講演会(2021)を開催しました！★

「バカの壁」の著者で、メディアでも広く活躍の 眞原 寛行 先生 (東京大学名誉教授) をお招きし、「医学の前進」一歩がとらえるヒトの体」をテーマにご講演いただきました。「意識と感覚の問題」、「AIとノイズ」などのお話に、講演会に参加された方々からは、「眞原先生の自然体で飾らないお人柄が感じられ、自分では考えつかないような事に衝撃を受けたり気づかせていただいたなど、多くの特製のコメントをいただきました。詳しい内容は、自治医科大学図書館オンデマンドでご覧いただけます。センター/活動報告のページからも入ることが出来ます。人数に制限がありましたので、参加しただけだった方も、ぜひこの機会にご覧いただければと思います。

★全国ダイバーシティネットワークより★

産科予診学講座教授の 市原 佐保子 先生のコラムが掲載されました。「先覚者はつらいよ 夫からの金言篇、全国ダイバーシティネットワーク コラム「女性研究者・学生の声」という題目で、市原先生の幼少期から現在に至るまでの過程で感じてきた「性別に対する意識」と、継続して持ち続けなければならない「自分が女性医師の代表だという自覚」、また、これまで経験してきた苦悩とそれを乗り越えてきた現在に思うこと、そんな研を糧で見守り続けてこられた自身様の励ましのお言葉。これらのことが綴られているコラムです。市原先生のお人柄が読み手に伝わってきます。当センター2月新着情報またはダイバーシティネットワーク Web サイトコラム女性研究者・学生の声よりご覧下さい。

★保育ルーム「あいらず」より★

あいらずでは、保育サポート(看護ボランティア)を募集しています。保育ルーム「あいらず」では現在、一時預児が221件、病児保育が267件、夜間保育が62件の利用者数となっております。病児保育および夜間保育のご利用件数が増えています。コロナ禍の中でイベントは中止していますが、オリジナルのお誕生白カードやクリスマスカードをお送りしたり「あいらずだより」発行等みなさま方に喜んでいただけるよう情報発信しています。★保育サポート★として保育支援活動に参加していただける地域の方を募集しています。詳しい情報は、「あいらずサポート」委員の連絡先へからご覧下さい。お知り合いの方にお声がけをお願いいたします。



その他の活動、広報・メディア

全国ダイバーシティネットワークに加盟したことにより、他大学との繋がりが出来てきた。セミナーやコラム執筆の依頼などがあり、キャリア支援センター担当教員から本学教員への協力依頼を快く引き受けて下さった。センター長は日本医科大学での講演や新聞インタビューなどを受けた。

2022年2月18日	市原佐保子、先覚者はつらいよ 夫からの金言篇、全国ダイバーシティネットワーク コラム「女性研究者・学生の声」
2021年2月20日	藤原寛行、産婦人科での女性医師の働き方の現状と取り組み、全国ダイバーシティネットワーク 特別企画セミナー「誰もが活躍できる医師の働き方改革を目指して」、Web 開催
2021年2月18日	小宮根真弓、巻頭インタビュー、下野新聞、記事掲載
2020年11月28日	小宮根真弓、女性のキャリア形成～多様性尊重の時代へ～ 女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクト研究発表会&研究人材育成セミナー、講演 (日本医科大学 オンライン開催)

統計データ

短時間勤務者(医師)

	20 時間時短勤務利用者数	育児短時間勤務者数
2020 年度	24	21
2021 年度	30	30

相談件数

	研修	復職	時短	保健所	育休	ハラスメン ト	夫婦別姓	合計
2020 年度	0	0	1	0	0	0	0	1
2021 年度	0	1	1	0	0	0	0	2

保育ルーム あいりす

	利用件数	利用会員数	サポート会員数
2020 年度	534	137	23
2021 年度	713	118	19

	一時託児	病児保育	夜間保育	合計
2020 年度	352	139	43	534
2021 年度	333	314	66	713

Jichi Joy Café

	参加者 女性	参加者 男性	参加者 合計
第 12 回 (2020. 8. 21)	9	1	10
第 13 回 (2021. 3. 5)	10	5	15
第 14 回 (2021. 10. 6)	12	2	14

次世代医師研究者交流会 講演会

	参加者 女性	参加者 男性	参加者 合計
第 16 回 (2021. 11. 15)	83	77	160

働き方を考えるセミナー

	参加者 女性	参加者 男性	参加者 合計
2021 年度 (2022. 2. 10)	38	11	49

医師・研究者キャリア支援センター 活動報告書
(2020/2021 年度版)

令和4(2022)年9月1日 発行

発行元 自治医科大学 医師・研究者キャリア支援センター

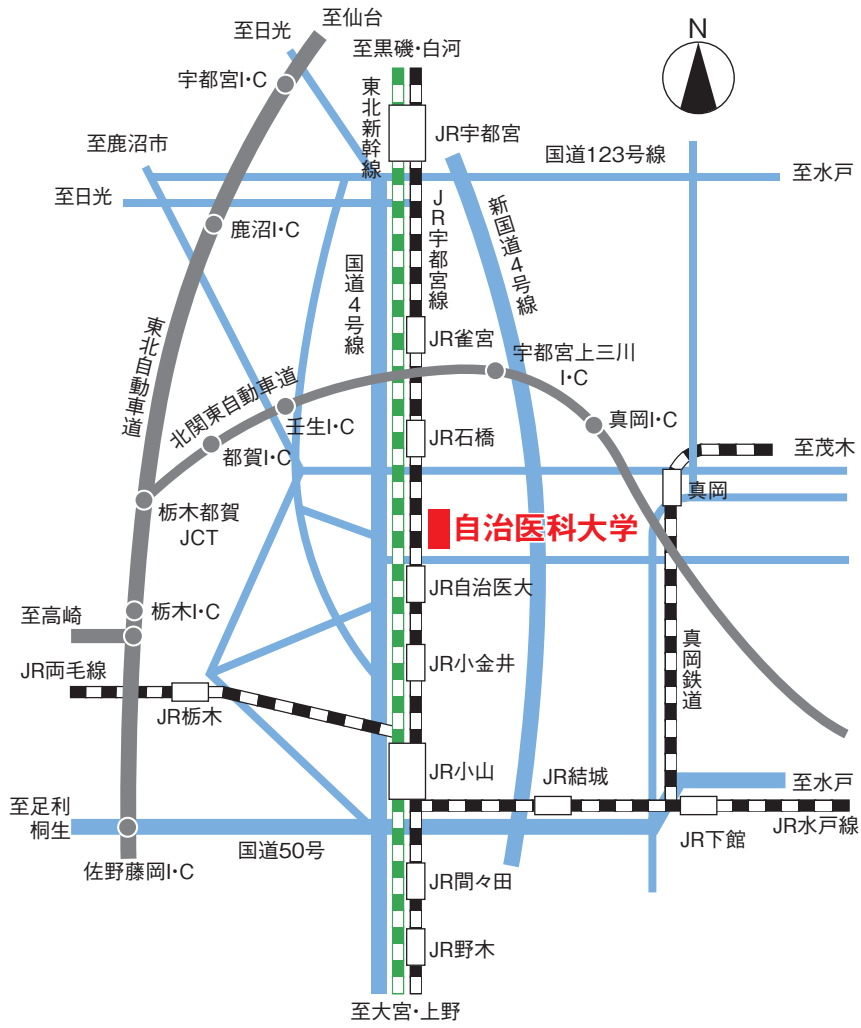
連絡先

T E L 0285-58-7561

F A X 0285-44-8627

career-support@jichi.ac.jp

アクセスマップ



JR自治医大駅より徒歩10分